地域づくりと景観設計（ごんべ洞門）

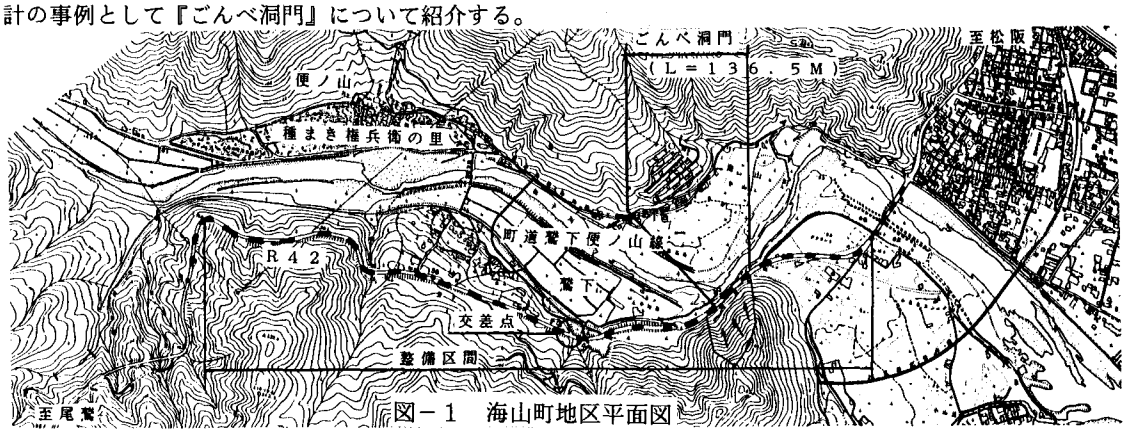
建設省紀勢国道工事事務所　正会員　　天野　一三
正会員　○西村　敏雄

1．はじめに

近年、国民生活の豊かさと余暇の向上に伴い、道路等の公共施設に対する意識が高まってきており、『親しみ』と『潤い』のある環境と景観の創出を目的とした道路整備が各地で進められてきている。

三重県北牟婁郡海山町においては、ふるさと創生事業として海山町便の山地区にて『種まき権兵衛の里』の整備が進められている。当地区の一般国道４２号は、同地域の玄関口となりアクセス道路となることより地域づくりにふさわしい道路整備の要望が出された。このため、『種まき権兵衛の里道づくり』として関係者による研究会を発足し、国道周辺の道路整備のあり方と当地区に施工される防災施設の景観及びデザイン等の検討を行った。

本報告は、『種まき権兵衛の里道づくり』として一般国道４２号海山町鷲毛地区の道路整備構想と景観設計の事例として『ごんべ洞門』について紹介する。



図－１　海山町地区平面図

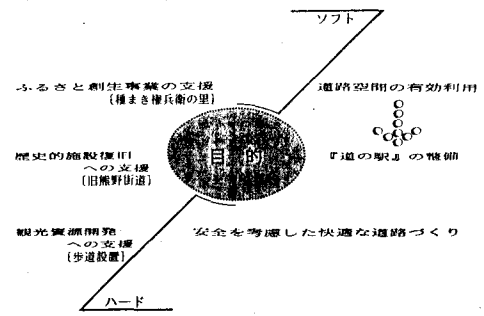
2．地域の取り組み

海山町は、伊勢志摩リゾート地の奥座敷、あるいは南紀観光ルートの入口として位置づけられ、三重サンベルトゾーン整備を中心として地域活性化に力を注いでいる。

このような位置づけから、海山町のリゾート振興の第一の目標を『車による紀伊半島周遊旅行者の立ち寄りスポット』として整備をし、ついで滞在型リゾートへ整備を進めるものである。

海山町リゾート構想の観光スポットの一つとして、平成２年度からふるさと創生事業として『種まき権兵衛の里整備事業』に着手し銚子川流域の総合的な開発を目指すものとしている。

この事業計画は、便の山地区に伝わる種まき権兵衛さんの非常に面白い民話を中心にすえ、それに加えて『花と緑と水』をテーマとした里づくりを進め、各種イベントを通じて地域の活性化に役立てるものである



3．道路の整備構想

3－1　整備方針

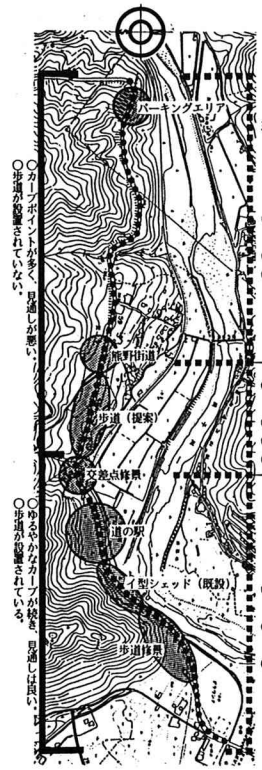
海山町における観光資源の開発は町の活性化につながるが、その反面アプローチ空間となる一般国道４２号においては観光客導入等の道路利用者増大という状況を招き、今以上に危険要素が多くなることが予測される。

紀伊半島の周回道路としての機能を持つ一般国道４２号において、通過点だけではなく『立ち止まり・触れ・知ってもらう』といった観点も取入れ整備していくことで、道路としては機能だけの単調なものから安全性を向上させた楽しい空間へ、そして町にとっては地域性の表現、ふるさと創生事業の支援につながるものとなる整備を図るものとする。

テーマ
「海・山・歴史のコミュニケーションロード」

コンセプト
キーワード「海山」－みやま－
海から山を感じ、山から海を感じ、共存してきた地域性の演出

３－２　道路現況と整備構想



現況

●山側は落石防止ネット、谷川は防備林が生い茂り、暗いイメージを持つ。
●沿道やこの路線にアクセスする人家がない。
●権兵衛の里を展望できる駐車スペースがある。

●「種まき権兵衛の里」の重要アクセスポイントとなる交差点である。
●交差点付近に景観の優れた滝（沢）がある。
●歴史的資産である旧熊野街道がある。
●沿道利用や人家とのアクセスの多い場所である。

●旧国鉄廃線敷用地が路線に沿って位置しており、道路と一対となる有効活用が望まれている。
●町営グラウンドにつながる道として歩行者、自転車の利用も考えられる。
●既に道路環境改善の一環として落石防止のためのイ型シェッドが完成しつつあり、権兵衛のエピソードレリーフを施すなどデザイン性も高い。

対処

○人家もなく、登り坂が長く続くため歩行者等の利用も見られないことから、歩道設置の必要性は特にないものと考えられる。
○権兵衛の里を展望出来る駐車スペースはパーキングエリアとしてカーブの多い山道や長距離を走ってきたドライバーの休憩施設として利用できるよう整備を図る。
また、観光資源である権兵衛の里を本格的に展望出来るようにし、町事業支援に役立てる。

○旧熊野街道は歴史的施設であり地元住民の散策道として活用されており、また海山の観光資源としても活用できることから、歩道設置を図り、歩行者の安全なルートを確保すべきである。
○種まき権兵衛の里へのアクセスポイントとなる場所であることから、地域の玄関的な要素をもたせた空間形成を図る必要がある。

○旧国鉄廃線敷用地を有効活用し、安全で快適な道づくりに貢献するよう、道路利用者にサービスできる施設の計画を図るべきである。
○イ型シェッドはデザイン性が高い分、個性の強いものとなっている。
この様なものは単体で設置されている場合には周辺から浮いてしまう場合が多く、せっかくの高いデザイン性も半減してしまう。
そこで、このイ型シェッドと一体となる歩道修景を図り、デザイン性の向上に役立て、利用する者に明るく楽しい、また地域性を感じさせるものにすべきである。

整備構想

方法…　花を使い空間を明るく演出し、また権兵衛の里とのつながりを感じさせる。

権兵衛の里の展望施設を備えたパーキングエリア

方法・・・歴史の重みを石畳で演出。
一般国道４２号からの存在感をもたせる。

伊勢への道の雰囲気をつくる。

方法・・・「道の駅」としての整備。

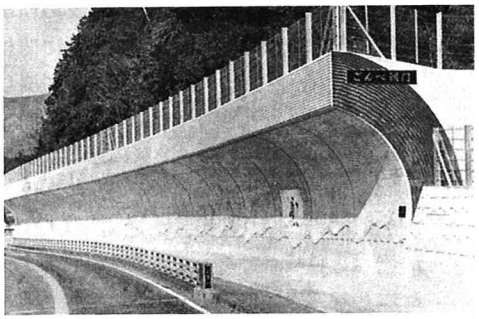
回廊式施設を取り入れた案。

円形広場を取り入れた案。

各種イベントに対応することの出来る整備。

４．ごんべ洞門（イ型シェッド）

イ型シェッドの景観性については、自然環境と調和させ構造物本来の機能美をいかしつつ地域色をかもしだす事を基本理念とする事より、構造形式は現場打アーチとし壁面に『種まき権兵衛』の四季のアートレリーフを配し、化粧型枠の利用により連続性とアクセントをもたせる。更に構造物の両棲部に木目を表現する事により丸太を表現する。
その結果、美観的に優れ歩行者等に対して圧迫感がなく開放的な洞門となり、『ごんべ洞門』と命名した。



写真－１　ごんべ洞門完成状況

５．おわりに

現在、海山町では、『種まき権兵衛の里』の整備が進められ、国道よりのアクセス道路が完了した。一方国道周辺の取り組みは、『ごんべ洞門』の完成を見ている。今後、地域との一体感をかもしだす事より国道周辺の取り組みが急務となっている。当面の事業として、『ごんべ洞門』に隣接する道路残地において『道の駅』の整備が予定され、情報発信基地として期待されている。更に、歩行者通行部の整備改善を図りつつ特に歴史背景を踏まえた旧熊野街道の石畳の復元等地域性を感じられる修景を施し、海山町にふさわしい道づくりに努める。尚、本事例が今後の地域づくりに参考になれば幸いである。